

弘前大学学報



台湾初となる国立高雄大学との大学間交流協調印式
(国立高雄大学にて)

第 152 号
平成28年11月号

目 次

学内ニュース

○教育学部 北原教授「第 5 回住総研 清水康雄賞」受賞	1
○国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) 主催による 日本・アジア青少年サイエンス交流事業 (さくらサイエンスプラン) を実施	2
○中央アジア・ウズベキスタンからの一行が学長を表敬訪問	3
○平成 28 年度第 2 回地域社会研究科公開セミナーを開催	4
○「第 2 回弘前大学附属図書館 POP コンテスト」表彰式を開催	5
○平成 28 年度弘前大学起業家塾 (第 6 回目) を開催	6
○医学部附属病院にて弘前保健所合同 MERS 患者受け入れ訓練を実施	7
○「弘前大学知財塾」を開催	8
○ウズベキスタンのタシュケント州立農科大学と 30 校目の大学間交流協定締結	9
○台湾の国立高雄大学と 31 校目の大学間交流協定締結	10
○台湾の開南大学と 32 校目の大学間交流協定締結	11
○第 23 回青森県留学生交流ジャンボリーに参加	12
○平成 28 年度第 3 回地域社会研究科公開セミナーを開催	13
○弘前大学ボランティアセンター「平成 28 年度第 2 回市民ボランティア講座」を開催	14

諸 会 議	15
-------	----

人 事

○人事異動	17
-------	----

主要日誌	19
------	----

学内規則	20
------	----

教育学部 北原教授「第5回住総研 清水康雄賞」受賞

教育学部 北原啓司 教授が「第5回住総研 清水康雄賞」を受賞し、去る平成28年11月2日(水)、第一ホテル東京(東京都港区)にて、贈呈式及び記念講演が行われました。

【受賞理由】

北原啓司氏は、地元東北を中心に住まい・まちづくりの実践はもとより、その担い手を育てることに積極的に取り組まれました。とりわけ「まち育て」のキーワードのもとに、住民・行政・専門家・学生等が、まちづくりに主体的かつ協働して取り組むことの意義を示し、その具体化と理論化に尽力されました。

その成果は、ワークショップを通して多様な担い手が協働して実現した「相馬村安田団地集会場・すばる103」や「黒石こみせ通り松の湯再生計画」として具体化し、さらに、まちなか居住に商店主が取り組んだ弘前の「土手住専科(まちづくり勉強会)」の支援活動に凝縮されています。土手住専科では、東北初めての借上げ公営住宅や、活動に共感した新聞社が地域の居場所を提供した「上土手スクエア」が実現しています。さらに、東北大震災からの復興においては、市民参画を重視して後方支援する「きたかみ震災復興ステーション」の実現と運営に尽力されました。これら実践活動において、北原氏は、優れたコーディネート力を発揮しつつも、自らは応援団に徹し、住民や行政が主人公であるというまち育ての神髄を体現しています。この点も素晴らしいことだと思います。もちろん、東北での実践に加えて、それを研究者として理論化し、「まち育て」や「まちなか居住」に関する執筆を通して、全国的に注目される業績へと発展させています。

一方、地元ラジオ局で毎週土曜日に放送される番組「まち育てないと」を15年の長きにわたり制作・運営していることも特筆されます。北原氏と住居学研究室のゼミ生が出演し、まち育てを楽しく語る場として地に根付いています。

以上、北原啓司氏による、「まち育て」を主題とした住まい・まちづくりの実践と、それを研究・理論化した一連の業績は、清水康雄賞が顕彰すべき「住まいに関する研究並びに実践における特に優れた成果」にふさわしい顕著な成果として、高く評価されました。

「住総研清水康雄賞」について

創設60年を機に平成20年(2008年)に創設された顕彰制度です。対象者は、住総研の目的「住まいに関する総合的研究・実践並びに人材育成を推進し、その成果を広く社会に還元し、もって住生活の向上に資すること」に適った優れた研究成果をあげるとともに、新たな時代につながる、或いは新分野を切り開くことが期待できる実践的活動を行ない、かつ今後も活躍が期待できる研究者です。



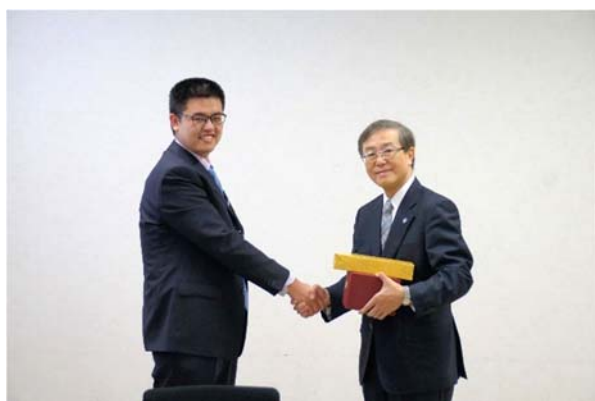
目録を手にする北原教授

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）主催による
日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン）を実施

北日本新エネルギー研究所では、平成 28 年 11 月 6 日（日）から平成 28 年 11 月 13 日（日）の日程で「日本・アジア青少年サイエンス交流事業さくらサイエンスプラン」を通じ、中国、タイ、インドネシアから優秀な大学院生及び大学生の受入を実施しました。

さくらサイエンスプランとは、アジア地域と日本の科学技術の発展に貢献することを目的とし、優秀なアジア地域の青少年を日本へ招へいし、未来を担うアジア地域と日本の青少年が科学技術の分野で様々な交流を実施するというもので、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）は採択された交流計画に対して招へい者の渡航費や滞在費などを支援しています。

本学からは、北日本新エネルギー研究所の官国清教授が平成 28 年度第 2 回のさくらサイエンスプランの公募に申請した結果、採択となり、本研究所の部局間協定校である中国・太原理工大学及びタイ・タマサート大学、またかねてより官教授と国際協同研究を行っているインドネシアのバンドン工科大学から優れた学生 8 名を本学に招き、最先端の再生可能エネルギー研究活動の見学、本研究所所属教員による特別講義、日本の研究者、学生と研究交流などを実施しました。その他、8 名の学生たちは、本研究所の位置する青森市のリンゴ園やねぶたの家ワ・ラッセ、三内丸山遺跡を訪問するなど青森県に特有の文化の体験なども行いました。



学長表敬の様子



地熱に関する特別講義

中央アジア・ウズベキスタンからの一行が学長を表敬訪問

青森県が誇るりんご技術を学ぶため、タシュケント州立農科大学、サマルカンド農業学院（いずれもウズベキスタン共和国）の研究者 11 名が平成 28 年 11 月 8 日（火）に、佐藤敬学長を表敬訪問しました。りんご栽培技術の近代化による農家の生計向上を目的に展開している JICA 事業「りんご栽培技術の近代化による農家の生計向上事業」の一環で今年の 6 月に続き、今回が 2 回目の表敬訪問となります。

前回の表敬訪問が契機となり、両校とは今年 9 月に大学間国際交流協定を締結したばかりで、協定締結後初となる今回の研修にはタシュケント州立農科大学からソフビ・イスラモフ副学長、サマルカンド農業学院からダヴラト・ノルムラドフ農学部長が加わり、りんごの収穫体験やりんご園・卸売市場の視察などが行われています。

サマルカンド農業学院、タシュケント州立農科大学の両校から佐藤学長へ、学長の写真がプリントされた陶器の皿と、ウズベキスタン帽子（ドッピ）や衣装（礼服）、お酒などが贈呈されました。さっそく衣装を身につけた佐藤学長から両校に津軽塗りのお盆が贈呈されました。

平成 29 年 3 月でこの事業は終了となりますが、今後は学術共同研究の実施や学生の派遣・受入れなどの交流がさらに活発なものになることが期待されます。



ウズベキスタン一行との記念写真



記念品を身に纏う佐藤学長

平成 28 年度第 2 回地域社会研究科公開セミナーを開催

平成 28 年 11 月 9 日（水）、弘前大学総合教育棟 206 講義室において、地域社会研究科公開セミナー「人口減少社会における地域創生とは」の講座を開催しました。

本セミナーは地域の社会人に大学院レベルの教育研究分野の学びを提供するために大学院地域社会研究科の授業カリキュラムを公開セミナー（全 4 回）として開放するものです。

第 2 回目となる今回は自治体関係者、教育研究関係者等地域の社会人及び大学院生 18 名が受講し、地域社会研究科 佐々木純一郎 教授が「地域経営における地場中小企業の役割」をテーマに講義を行いました。また、同テーマについて同研究科の大学院生より 2 件の報告発表がありました。

セミナー後半では佐々木教授、大学院生及び受講者が、それぞれの立場から地域を考えていく際に必要なマーケティング、デザイン、中小企業支援等をキーワードに活発なディスカッションを行いました。



佐々木教授による講義風景



佐々木教授，大学院生，受講者による
ディスカッションの様子

「第2回弘前大学附属図書館 POP コンテスト」表彰式を開催

弘前大学附属図書館では、昨年度に続き、図書館の利用促進や読書推進を目的とした第2回 POP コンテストを開催しました。今年度は、当館にご寄附をいただいておりますサンライズ産業株式会社様からのご支援により、サンライズ産業㈱賞を新設するとともに、当初の予定より副賞の金額を増額しました。

平成28年5月23日（月）～平成28年7月29日（金）の応募期間に24点のPOP応募があり、作品は全て該当図書と共に館内特設ブースに展示されました。そして、一般利用者を含む図書館利用者からの投票、および学内利用者による専用投票 Web ページからの投票によって、全6作品の入賞を決定しました。

表彰式は11月11日（金）に附属図書館本館にて行われ、大賞を受賞した人文社会科学部1年 佐々木伊吹さんをはじめ、それぞれの受賞者に中根館長から表彰状が手渡されました。また、サンライズ産業㈱賞受賞者である教育学部3年 奥寺桜子さんには、サンライズ産業㈱・工藤代表取締役から表彰状が授与されました。



受賞者との記念撮影



附属図書館内特設ブース

平成 28 年度弘前大学起業家塾（第 6 回目）を開催

平成 28 年 11 月 14 日（月）、弘前大学総合教育棟 2 階大会議室において、「弘前大学起業家塾」を開催しました。

本起業家塾では、レンタルラボ等のインフラを活用し、学生や研究者を対象に、実際の起業家等による講演及びワークショップを中心とした起業家育成プログラムを実施することで、起業への意識醸成を図り、起業（VB）の促進、研究シーズ等を活用した起業家の育成及びイノベーションの創出を目指します。

全 6 回の締めくくりとなる今回は、書類審査を通過した 6 グループがそれぞれのビジネスプランについてプレゼンテーションを行い、最優秀賞 1 組と優秀賞 2 組を決めるビジネスコンテストを開催しました。各グループは、持ち時間をフルに使い、創意工夫した発表によって会場を大いに盛り上げました。

インタープロテイン株式会社代表取締役社長 細田雅人 氏、株式会社エーアイスクエア 代表取締役社長 石田正樹 氏、フューチャーベンチャーキャピタル株式会社 投資育成部部长 石井優 氏ら 5 名の外部審査員を含む計 8 名の審査員による審査の結果、最優秀賞には、乳製品を使ったビジネスについて発表した「頑張りましょう」の皆さんが選ばれました。審査員からは、企画力について特に評価する声が聞かれました。また、優秀賞は、入院患者を対象にしたビジネスについて発表した「福桃」さん、地方の酒肴を活用したビジネスについて発表した「弘前大学人文 4 人組」の皆さんがそれぞれ受賞しました。

ビジネスコンテスト終了後には、四元マーケティングデザイン研究室 代表 四元正弘 講師による特別講演に続き、日本ベンチャー学会事務局長 田村真理子 講師による「起業意識と起業支援」と題した講演が行われ、日本と海外の起業活動の違い、自身の経験を生かしたプランニングや SNS を利用したネットワークの拡充の必要性についての解説、「キャンパスベンチャーグランプリ」についての紹介がありました。

当日は、学生、教職員、学外研究者、企業関係者ら 51 名が聴講し、終了後も熱心な意見交換が行われるなど、本学における起業意欲の高まりを見せていました。



最優秀賞を受賞したグループ



発表者と審査員

医学部附属病院にて弘前保健所合同 MERS 患者受け入れ訓練を実施

弘前大学医学部附属病院では、平成 28 年 11 月 14 日、弘前保健所と合同で中東呼吸器症候群（MERS）疑似症患者発生を想定した搬送・収容の訓練を行いました。訓練は青森県庁や各保健所、消防事務組合、近隣の関係医療機関の感染制御担当者なども見学する中で行い、患者から保健所への連絡、患者自宅から病院への患者搬送と引き渡し、病院への患者の収容、診察と精密分析検査のための検体採取、検体の保健所への引き渡しという一連の流れを確認しました。

今回の訓練では、訓練をそつなくこなすことではなく、「患者受け入れに際して発生する様々な問題点をはっきりと認識すること」に注意が払われました。訓練後には、他国で発生した MERS の大規模な院内伝搬事例が紹介され、弘前大学医学部附属病院が 2 類感染症の指定医療機関として、搬入される患者さんは勿論のこと、病院を利用する全ての患者さんと働く職員にとって安全で快適な環境を提供することの重要性が確認されるとともに、今後の課題などについて活発な意見交換が行われました。



MERS 患者受け入れ訓練の様子

「弘前大学知財塾」を開催

弘前大学研究・イノベーション推進機構は、平成28年11月17日（木）に弘前大学創立50周年記念会館岩木ホールにおいて、教育・研究活動によって得られた知的財産の保護及び有効な活用により、社会の持続的発展に貢献することを目的に、今回で28回目となる「弘前大学知財塾」を開催しました。

今回は、国立大学法人山口大学 学長特命補佐，大学研究推進機構 知的財産センター長であり有限会社山口ティール・エル・オー代表取締役社長 佐田洋一郎 氏を講師に迎え、「トラブルを起こさない研究果実の取り扱い方」と題し御講演いただきました。

佐田氏からは、共同研究開始前後の注意点や共同研究成果を配分する際の注意点の他、発明の特徴（類似技術との違い）について引き算を用いて明確にする思考方法などの解説をしていただきました。また、強い特許創出のための判別法として実施例を用いて解説いただき、強い特許明細書の作成法のヒントを御教授いただきました。

当日は知財塾開催前に、「大学と知的財産 ～山口大学の知財活動の取り組み～」と題し山口大学における知財活動の新たな取り組みについての御講演もしていただきました。

参加した42名の教職員は、大学と研究者に求められる特許取得の目的や研究成果の取扱いについて熱心に聞き入り、具体的な事例に基づいた質疑応答も活発になされ、知的財産管理の意識について理解を深める有意義な場となりました。



知財塾の様子



講師の佐田氏

台湾の国立高雄大学と 31 校目の大学間交流協定締結

本学と台湾初となる国立高雄大学との大学間交流協定の調印式が、国立高雄大学にて佐藤学長、大河原理事（社会連携担当）・副学長，小山副理事（社会連携）らの列席のもと、平成 28 年 11 月 17 日に盛大に滞りなく執り行われました。協定の有効期間は 5 年間で自動更新となっています。

国立高雄大学は台湾高雄市に位置する国立大学で、2000 年に設立されました。本学との交流は 2016 年 3 月に 10 日間の日程で試行的に「台湾研修プログラム」で教員引率のもと学生が国立高雄大学を訪問したことが始まりです。その後、国立高雄大学から協定締結の打診があり、グローバル人材育成事業での訪問も計画される等、活発な交流が期待され、協定締結に至りました。

台湾は親日的で治安がよく費用が比較的安価であり、また 2015 年度に試行的に行われた「台湾研修プログラム」が 2016 年度から本学の教養教育科目で授業化されることが決定しており、学生の海外研修先としての交流の継続及び交換留学等の交流が期待されます。



協定書にサインする佐藤学長



調印後の記念撮影

台湾の開南大学と 32 校目の大学間交流協定締結

本学と台湾 2 校目となる開南大学との大学間交流協定の調印式が、平成 28 年 11 月 18 日に開南大学にて、佐藤学長、大河原理事（社会連携担当）・副学長、小山副理事（社会連携）らの列席のもと、開南大学の梁榮輝学長や関係者の他、日本語学科の学生も多数参加し、にぎやかに執り行われました。協定の有効期間は 5 年間で自動更新となっています。

開南大学は、台湾北部の桃園市に本部がある私立大学です。大学設立は 2000 年ですが、前身は日本の拓殖大学の設立母体である台湾協会が海外兄弟校として設立した台湾商工学校で、2017 年に創立百周年を迎えます。本学との交流は 2016 年 3 月に 10 日間の日程で試行的に「台湾研修プログラム」で教員引率のもと学生が開南大学を訪問したことが始まりです。

人文社会学院に应用日本語学科があり、所属学生数は一学年 120 名で、うち学部生 50 名と大学院生計 60 名は日本への留学が義務づけられているため、日本の大学との提携に熱心に取り組んでおり、開南大学から協定締結の打診があり、協定締結に至りました。

台湾は親日的で治安がよく費用が比較的安価であり、また 2015 年度に試行的に行われた「台湾研修プログラム」が 2016 年度から本学の教養教育科目で授業化されることが決定しており、国立高雄大学とともに学生の海外研修先としての交流の継続及び交換留学等の交流が期待されます。



開南大学学長と佐藤学長



開南大学人文社会学院

第 23 回青森県留学生交流ジャンボリーに参加

青森県内の大学等が加盟する青森県留学生交流推進協議会は平成 28 年 11 月 19 日（土）、20 日（日）の 1 泊 2 日の日程で「第 23 回青森県留学生交流ジャンボリー」を開催し、弘前大学からは留学生 23 名が参加しました。

今年度の当番校である青森中央学院大学の企画により、本学、青森中央学院大学、青森大学、八戸工業大学及び八戸高専高等学校から集まった総勢 49 名の県内の留学生たちは、十和田乗馬倶楽部での乗馬、弓、レザークラフト、南部町でのファームステイ体験、南部町立中央公民館でのクリスマスリース作りなどを体験しました。

ファームステイ終了後に行われた離村式での代表学生のスピーチでは、「1 つ屋根の下で農家さんと暮らしてみても、アパートで 1 人暮らしをしているのとは違う体験をし、心があたたまった。」「柿の皮をむきながら、おばあさんの昔の話を聞き感動した。」「ファームステイ先のお母さんが自分のお母さんに似ていて涙がでた。」「さくらんぼの季節にまた来たい。」という声が聞かれました。

県内の留学生たちはファームステイで収穫したりんごや梨、柿などをお土産に笑顔でそれぞれの家路へ着きました。



乗馬や弓の体験をする様子

平成 28 年度第 3 回地域社会研究科公開セミナーを開催

平成 28 年 11 月 22 日（火）、弘前大学総合教育棟 206 講義室において、地域社会研究科公開セミナー「人口減少社会における地域創生とは」第 3 回目の講座を開催しました。

本セミナーは地域の社会人に大学院レベルの教育研究分野の学びを提供するために大学院地域社会研究科の授業カリキュラムを公開セミナー（全 4 回）として開放するものです。

第 3 回目となる今回は、地域社会研究科 平井太郎 准教授が「地域に根ざした仕事づくり」をテーマに、青森県内外の具体的事例やデータを用いながら、地域に根ざした「仕事」づくりの戦略について講義を行いました。

当日は自治体関係者、教育研究関係者、地域で活動する社会人等 26 名が参加し、セミナー中およびセミナー終了後も平井准教授に多数の質問が寄せられるなど、熱心に受講していただきました。



平井准教授による講義風景



熱心な受講者の様子

弘前大学ボランティアセンター
「平成 28 年度第 2 回市民ボランティア講座」を開催

平成 28 年 11 月 25 日（金）、弘前大学ボランティアセンターは、「平成 28 年度第 2 回市民ボランティア講座 熊本地震現地調査報告」を開催しました。

本センターでは、東日本大震災発生後の平成 23 年 4 月 11 日より、「チーム・オール弘前」として毎月、岩手県野田村でボランティア活動を行っており、市民ボランティア講座を開催し、より多くの弘前市民や学生がボランティア活動の実状やその重要性を幅広く理解することで、ボランティア活動へ積極的に参加してもらうことを目指しています。

同講座では、平成 28 年 4 月 14 日からの熊本地方を震源とした地震から半年経過した現地の状況やボランティア活動の状況についての報告が行われ、市民・学生・教職員合わせて 24 名が参加しました。大河原隆センター長から開催の挨拶の後、李永俊副センター長（人文社会科学部教授）から行われた報告では、熊本地震の特徴、ペットとの同行避難施設、収納機能を備えた段ボールのベッドやコインランドリーの設置等現地の様子が具体的に伝えられ、災害時や災害復興期に問われるのは「地域住民の自治力」であり、「日頃の自治力」が重要であると述べられました。また、台風 10 号による被害を受けた岩手県野田村、久慈市、岩泉町への支援活動についても「チーム・オール弘前」で実施し、のべ 218 人が参加したことが報告されました。

引き続き、本センターの活動に市民ボランティアとして参加経験がある気象予報士の藤田淳氏から「平成 28 年台風 10 号による災害について」の解説も行われました。解説では、台風 10 号により大きな被害が出た岩泉町を例に、気象予報士の視点から、降り続く「弱い雨」や「台風の低温化」に注意が必要であること、避難するタイミングについて、自分の住んでいる場所に置き換え普段から考えること、気象情報を確認し避難する準備を万全にしておくことの大切さについて述べられました。質疑応答では、台風の進路予想、予想精度や避難所の管理運営について質問が寄せられ、大変有意義な講座となりました。



大河原センター長による開催挨拶



講演を行う李教授

諸会議

▼役員会

11月7日（月）

審議事項

1. 弘前大学と開南大学との大学間交流協定締結について
2. 弘前大学と国立高雄大学との大学間交流協定締結について
3. 弘前大学と青島農業大学との大学間交流協定締結について
4. 平成28年度予算実施計画の変更について
5. 地域科学技術実証拠点整備事業について
6. 共同研究講座の設置について

報告事項

1. 教職大学院の設置可について
2. 平成28年度学部改組及び大学院定員増に係る現状と今後の対応について
3. 第3期中期目標・中期計画及び平成28年度計画の進捗状況について
4. 教員業績評価における評価項目及び評価基準の見直しについて
5. 免税アルコール立入検査の結果について
6. 平成27年度決算検査報告について（DNA合成製品の購入等）
7. 平成28年度弘前大学学術特別賞の受賞者決定について
8. 平成28年度研究倫理教育の受講状況について
9. むつサテライトキャンパス「食育健康講座」の実施について
10. 平成28年度医学部附属病院の収支実績見込みについて
11. 平成28年度医学部附属病院の経営状況について
12. 平成28年度内部監査（重点監査項目）の結果について

11月21日（月）

審議事項

なし

報告事項

1. 国立大学法人弘前大学の平成27年度に係る業務の実績に関する評価結果について
2. 各学部における三つの方針（案）について
3. 平成28年度科研費（補助金分・基金分）配分状況等について
4. 平成29年度科学研究費助成事業の申請状況について

▼教育研究評議会

11月8日（火）

審議事項

1. 弘前大学と開南大学との大学間交流協定締結について
2. 弘前大学と国立高雄大学との大学間交流協定締結について
3. 弘前大学と青島農業大学との大学間交流協定締結について
4. 地域科学技術実証拠点整備事業について
5. 共同研究講座の設置について

報告事項

1. 教員の採用等について
2. 教職大学院の設置可について
3. 第16回総合文化祭について
4. 平成28年度弘前大学学術特別賞の受賞者決定について
5. 平成28年度研究倫理教育の受講状況について
6. 平成28年度内部監査（重点監査項目）の結果について
7. 委員会等報告
 - (1) 教育委員会報告（10月26日開催分）
 - (2) 教育推進機構会議報告（10月14日，10月28日開催分）

▼教育委員会

11月30日（水）

審議事項

1. 弘前大学における再入学について
2. 弘前大学GPA値の算出方法等に係る再検討について
3. 平成28年度後期 授業料免除について
4. 平成28年度後期 弘前大学大学院振興基金について
5. 学則による授業料免除選考に関わる学力基準の取扱いについて
6. 卓越した学生に対する授業料免除に関する取扱要項の制定等について

報告事項

1. 平成29年度新入生の授業開始までの日程について

新任教授紹介

【平成28年11月1日発令】



教授(自然科学系(農学・生命科学領域)／農学生命科学部専任担当)

イワイ 邦久
採用



教授(自然科学系(安全システム工学領域)／大学院理工学研究科専任担当)

ヨシナリ 哲
採用

人事異動

〔採用〕

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
H28年11月01日		岩井 邦久	教授(自然科学系(農学・生命科学領域)／農学生命科学部専任担当)
H28年11月01日		天海 丈久	准教授(人文社会・教育学系(教育・芸術領域)／教育学部専任担当)
H28年11月01日		山中 扶美奈	看護師(病院・看護)
H28年11月14日		吉成 哲	教授(自然科学系(安全システム工学領域)／大学院理工学研究科専任担当)

〔任期更新〕

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
H28年11月01日	栄養士(教育・附小)	宮川 咲	栄養士(教育・附小) [H28.12.31まで]

〔昇任〕

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
H28年11月01日	助教(自然科学系(農学・生命科学領域)／農学生命科学部専任担当)	前多 隼人	准教授(自然科学系(農学・生命科学領域)／農学生命科学部専任担当)
H28年11月01日	助教(医学系(臨床医学領域)／大学院医学研究科専任担当)	重藤 龍比古	講師(医学系(臨床医学領域)／医学部附属病院専任担当) [H35.10.31まで]
H28年11月01日	助手(医学系(臨床医学領域)／医学部附属病院専任担当)	小林 只	助教(医学系(臨床医学領域)／医学部附属病院専任担当) [H33.10.31まで]

【休業】

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
H28年11月18日	看護師(病院・看護)	工藤 里沙	育児休業開始 [H30.3.31まで]
H28年11月20日	看護師(病院・看護)	秋庭 菜穂子	育児休業開始 [H29.9.30まで]

【休職】

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
H28年11月01日	栄養教諭(教育・附小)	菊地 純子	期間延長 [H28.12.31まで]
H28年11月01日	副看護師長(病院・看護)	工藤 文子	期間延長 [H29.3.31まで]
H28年11月28日	事務職員(医学研究科)	石川 直哉	休職開始 [H29.3.31まで]
H28年11月28日	副看護師長(病院・看護)	小田桐 裕子	休職開始 [H29.1.20まで]

主要日誌

- 11月 6日 国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）主催
日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン）（～13日）
- 7日 第467回役員会
- 8日 中央アジア・ウズベキスタンからの一行が学長を表敬訪問
〃 企画戦略会議
〃 教育研究評議会
- 9日 平成28年度第2回地域社会研究科公開セミナー
- 11日 「第2回弘前大学附属図書館POPコンテスト」表彰式を開催
- 14日 平成28年度第6回弘前大学起業家塾を開催
〃 医学部附属病院にて弘前保健所合同MERS患者受け入れ訓練を実施
- 15日 経営協議会
- 16日 事務連絡会議
- 17日 「弘前大学知財塾」を開催
〃 台湾の国立高雄大学と31校目の大学間交流協定締結
- 18日 台湾の開南大学と32校目の大学間交流協定締結
- 19日 第23回青森県留学生交流ジャンボリー参加（～20日）
- 21日 第468回役員会
- 22日 平成28年度第3回地域社会研究科公開セミナー
- 25日 弘前大学ボランティアセンター「平成28年度第2回市民ボランティア講座」
- 30日 教育委員会

■ 学内規則

2016年11月に制定・改正・廃止等した学内規則はありませんでした。

弘前大学学報第152号

弘前大学総務部総務広報課
036-8560 弘前市文京町1
電話 (0172) 36-2111